小池都知事「多様性が社会元気に」　女性デーで意見交換

#東京 #出生率・少子化 #関東

2023/3/8 13:00 [有料会員限定]

国際女性デーに合わせ、女性・子育て政策などについて小池百合子都知事㊧と平田オリザ氏が議論した（東京都庁）

東京都の小池百合子知事は3月8日の「国際女性デー」に合わせ、劇作家の平田オリザ氏、日本経済新聞の中村奈都子編集委員と、女性参画や少子化対策、子育て支援策などについて議論した。小池氏は「ダイバーシティー（多様性）は社会を元気づかせる」と強調し、3人は女性の活躍を多方面から支援することの重要性で一致した。

都庁内で事前収録した8日公開のNIKKEI LIVEに出演した。小池氏はまず、国に先駆けて総額1.6兆円規模の2023年度の少子化対策で婚活や不妊治療、出産や教育への支援などを用意したことを解説。政策は「シームレス（切れ目ない）がキーワード」とし、出会いから出産、子育てを切れ目なく支援する姿勢を都が明確に打ち出し、都民へのメッセージとする意義を強調した。

小池氏は都議会の女性議員比率が3割を超えていることで、「おのずとテーマも女性参画や子育てや介護、現場の声を反映するかたちになっている」と指摘。政治の分野で女性が活躍する効果に触れ、「優先順位を定めるのが政治の仕事であるならば、まさにその中に少子化や女性活躍をテーマに入れ込んだ」と述べた。

小池百合子都知事は平田オリザ氏との対談で、女性・子育て支援の重要性などについて語った（都庁）

一方、平田氏は芸術分野で女性参画に取り組んできた経緯を説明した。母が出産を理由に留学を諦めたことが原点となり、女性が結婚や出産、子育てで自分の夢を諦めないよう、劇団では女性が働きやすい職場やハラスメント規定などを整備したという。

そうした環境整備が奏功したことで、「それを理由に（劇団に）入ってくる優秀な方が増える。子供が生まれても続けられるというマインドを持つだけでいろいろなことが変わる」と訴えた。

議論は、日本が政治分野の女性参画で後れを取っていることにも及んだ。小池氏は女性が進出しづらい制度や政党などの意思決定の場に女性が少ないとし、「日本そのものが異次元なことがあまりに多すぎる」とした。

平田氏は海外の政治分野などでも導入が進む（一定比率の女性登用を義務付ける）クオータ制について、自身のエピソードを披露。新人戯曲賞で男性ばかりの審査員が女性の作品を判断することに不安があり審査員のクオータ制を導入したとして、政治の分野も「男性だけで決めて不安にならないのか」と述べた。

今後の期待として、小池氏は「日本モデルを変えていくことが国民の幸せや新産業を生み出す」と述べ、「一人ひとりの幸せややりがいが多様になっており、社会も多様にしていく必要があるのでは」と提言した。平田氏は「女性が元気に生き生き働けることがまず少子化対策の一番の課題。そういう社会をつくってほしい」と求めた。

NIKKEI LIVEの出演映像はこちらから視聴できます。

小池都知事と考える　増えぬ女性議員、少子化対策どう進める